

サ

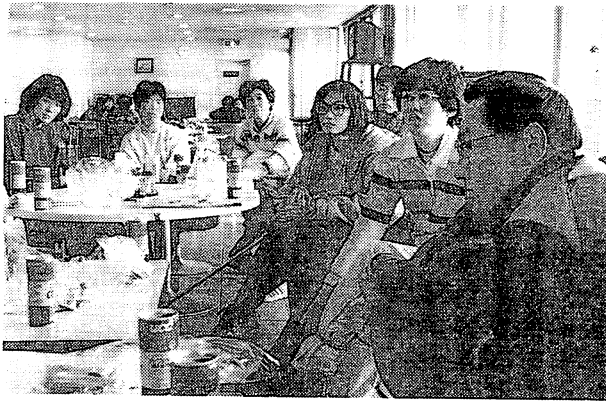
ロ

ン

あべの

NO.82

出会い ふれあい 助け合い



平成五年三月二十日(春分の

サロン・あべの三月の出会い

春よみつけに...

行くはずが...



日)のサロン・あべのは、大阪  
市身体障害者スポーツセンター  
二階のラウンジにおいて、お茶  
とお菓子を前に、みんなで語り  
合うという、文字どおりの「サ  
ロン」となった。

初めて参加された方もあり、  
まず、ひととおり自己紹介をし  
ていただいた。そのあと、それ  
ぞれに、今、思っていることや  
していること、あるいは、ほか  
の人への質問など、本当に和や  
かに、「サロン・あべの」らし  
い雰囲気の中、みんなで語り合  
う時間を持つことができた。

また、サロン・あべの紙の80

号でお知らせしていた、「ひびき  
掛け」プレゼントの抽選会も、  
この場で行った。

七名の応募があり、厳正なる  
抽選の結果、長島伊津子さんと  
田村昌子さんが当選された。

実は、三月のサロンは、長居  
公園を散策する予定であったが、  
あいにく、雨が降ったりやんだ  
りという天候には勝てず、場所  
をラウンジに移すことになった  
のである。

せっかく長居公園に行くのを  
楽しみにして参加してくださっ  
た二十一名のみなさんと、急に  
場所を占拠してしまったラウン  
ジの方々には、本当に申し訳な  
かった。

しかし、これに懲りず、また  
秋には、堺市の大仙公園に行く  
計画を立てているところである。  
またひとりでも多くの方々の参  
加をお願いしたい。

(上平幸雄)

<サロン・あべの>1992年度のテーマは、「ヘルシーライフ」でした。  
心身共に健康で充実した生活を送ることが出来るように、その為のヒントの  
ひとつにサロンの出会いが活用されれば…との想いを描いた一年でした。

月・日・曜日	ハサロン・あべのV毎月の出会い
平成四年 四・十八・土	「リハビリテーションと二次障害」 於 研修室 パネラー  沢田啓祐氏(大阪障害者更生相談所所長)
五・十三・水	朝日新聞へともに生きるV「輪」欄にハサロン・あべのV の活動紹介記事
五・十六・土	「障害者と就労」 於 研修室 パネラー  山田隆司氏(国立大阪障害者職業訓練校情報処 理指導員)
五・二四・日	ウイル作業所見学(大阪市住吉区大領町)
六・二〇・土	国立大阪障害者職業訓練校(堺市城山台五丁一三)と、 大阪ワークセンター(和泉市伏屋町三四一十九)の見学会 昼食(ファインプラザ大阪  堺市城山台五丁一三) リフト付きバス利用、会費  一〇〇〇円
七・十八・土	「フルートとギターの午後」 於 幸分ホール フルート  沖村朋子氏・ギター  伊藤明弘氏 会費  五〇〇円(飲み物付き)、ビデオ撮影  植松氏
八・二・日	あべのカーニバルなんでも市通りに「さろん亭」出店 於 工芸高校グラウンド
九・十九・土	「地域福祉を創る」 於 研修室 パネラー  上野谷加代子氏(桃山学院大学社会福祉学科 福祉コース教授)



# サロンあべの92

九・二四・木	あべのボランティア・ビューロー「ボランティアの集い」の研修会として、ビューローボランティアもグループ参加
十・十七・土	ハサロン・あべのV紙、大阪府社会福祉協議会第二〇回広報紙コンクールにおいて「優秀賞」受賞 「歯と健康管理」 於 研修室
十一・二一・土	パネラー 西田百代氏 (大阪府立身体障害者福祉センター 付属病院歯科部長 歯学博士)
十二・五・土	「私の健康法」 参加者の方々の健康管理について聞く 於 幸分ホール 「とびきりHOTに過ごすHAPPY Xmas!」 於 幸分ホール
十二・二一・月	ゲスト: 語り 福角幸子氏・アルパ演奏 内海淳子氏 会費 一五〇〇円 (軽食・飲物・プレゼント等含む)
平成五年	平成四年度大阪市ボランティア活動振興基金助成金の交付を受ける
一・十六・土	「新しい年 新しい出会い」 於 「遊彩食」 (阿倍野近鉄百貨店九階) 会費 二〇〇〇円 (ステーキランチ・飲物)
二・二〇・土	「国連・障害者の十年をふりかえって」 ビデオ「新たな旅立ち」 (ビデオ操作 植松氏) 於 研修室
三・二〇・土	「春を見つけに・・・」 雨天の為、市立身障者スポーツセンター二階ラウンジで話合い

研修室・幸分ホール 青徳コミュニケーションセンター (大阪市阿倍野区阪南町五十五-二八)



教師臭い

教師臭いつて嫌やなあ。本を読んだり物を書いたりするのが好きで、大学の教師にはなつたけど、もともとぼくは教師なんかにはなりたいとは思わなかった。なんでなりとうなかつたかというたら、あの何ともいえん教師の臭いというのが嫌やつたんや。

なんやろなあ、あの教師くささというのは。しょうもないことで大げさに騒いで自分のメンツを一生けんめいに守つとるといふ感じ。若いころから先生、先生ゆわれて、ゆうてる方は、そないに尊敬してゆうてるわけやないのに、つい本気にしてしても、あほやなあ、いつのまにやら、自分をいっばしの人間やと思ひこんでしまふんやろ。考えたら、哀れなもんや。

そんな教師にとつて学生は、なんとか抑えておかなあかんモグラ叩きのモグラのようなもんなんや。相手は若いさかい、叩いても叩いても、頭だしよるけどな。自信がないんやろなあ、あないに偉そうにするのは、そうしてん

と、いてられんのやろなあ。

なめられたらあかん、と思うさかいに、つまらんとこで我をはったりするのや。それに、なんであないにけつたいな言葉つかうんやろ。おかしいわ。やめてほしいわ。わかりやすい言葉で



しやべつたらええねん。むずかしいことを、わかりやすい言葉で話すから先生なんや。わかりやすいことを、わざわざ難しい言葉でいうのは、あれは、へんな見栄としか思えへん。

むずかしい言葉をならべたら、学生が感心すると思とんか。ぜんぜんちゃうわ。学生は、ぎょうさん、いろんなこと知つとうでえ。教師は自分の土俵のうえに学生を呼んで、相撲を教えるようなもんなんや。自分の土俵のうえやさかい、よう知つとうだけや。自分の狭い土俵を出たら、何も知らんくせに何でも知つとうような顔せんといてほしいわ。

学生は常識知らん、やなんて言わんとつてほしいわ。常識やなんて、場、場によつて違ふんやで。先生、偉そうに社会常識を学生は知らんやなんて言うけど、呑み屋の常識、知つてはりますか。ぼくは知らんけど、学生はよう知つとるわ。いっしょに呑みに行つたら、なんでも教えてもらわなあかんかった。それが、どないしたと言わはるかもしれんけど、狭い先生の専門の知識も、知つてて、どないやねんちゆう

もんかもしれへんで。

知識やなんて持つてても、なんも自慢にならへん。誰も尊敬するかいな。えらいなあと思うのは、その人の態度やで。真剣なんやなあ、ちゃんと受けとめてくれるんやなあという態度が、ひとの心をつかむんや。

ぼくね、もう、学生になめられてもええんちゃうかと思いはじめた。なめられんことと思て、あほなことするより、なめられてもええわと、ふつうに自然にふるもうた方がましやんか。

先生いうたら、学生から尊敬されて当たり前やと、本気で考えとうやろ。そんな関係、めったにあるかいな。あつたら宝みたいなもんやで。大事にせなあかん。それに尊敬というのはいたいていお互いのことや。こつちから一方的に尊敬するというのは、なんかほんまの尊敬やないなあ。社会的名声とか、そんなんに引かれてるだけとちゃうやろか。尊敬されなあかんと思とる人間は中身なくせに偉そうにするやろ。偉そうにする人間は尊敬されへん、嫌われるだけや。わざわざ難しい言葉をつかう先生もおんなじやで。あほやな

あ、と学生はちゃんと見抜いとる。

教師は、年の離れた友達みたいなものでええんやないかな。難しいことなんかあらへん。わしは先生なんやという、変なプライドさえ捨てたら、それだけでけつこう友達になれるんとちゃうかな。学生が乱暴な言葉つこても、先生にこんな言葉でわたしら話せんね

んで、いうて、他の学生に自慢しとるかもしれへんのや。

学校はなれたら、頼むから、ぼくのこと先生とか呼ぶのやめてや。職場でおたがいに先生、先生って呼びおうてるとな、ああ、ぼくも教師くそうなつてしもたなあと落ち込むときがある。ほんまやで。

(知)

おもろい 姉ちゃん

田淵 美登利

プレゼント

最近、私はもてて困っています。と言っても、結婚志願者が周囲をとり囲んでいるではありません。

寮生H君が、何故か私を気に入ってくれて、朝な夕なに、「はんぶくん」(半分)攻撃をしかけてくるのです。語彙の少ないH君は、自分の気に入った人には「はんぶくん」で好意を伝えるのです。

そして、私の机の上には、当直室より盗んだパン半分や、彼のおやつのおせんべい半分、かっぱえびせん少々、袋にも入れてもらえず、日替わりでのる羽目になっています。

今まで最高のプレゼントは、セメントブロック一個。ただ今、もらうてうれしい物、うれしくない物について、二人で話合いです。

## Volunteer Center

21

### 十 今後の課題(2)

ボランティアセンター(VC)やボランティア活動の課題として、②ボランティアサービスのなかでも、市民が担っていく必要があるものについては、ボランティアが組織的に提供できるようにシステムをつくるということである。

システム化ということには「制約」や「統制」といった面があり、自主性や自発性を重んじるボランティアの考え方と矛盾しないかということが問題になる。しかし、必要以上に堅く考えるのは良くないが、継

続性や責任性はボランティア活動の大切な要素であるから、より充実した効果のある活動を行うためにも、個人の意志だけに左右されない組織的な活動としてのシステムづくりを行っていくことが必要であろう。ボランティアが効果のある活動を行うことがサービスの制度化をすすめる、地域福祉の充実を図っていく先導的な役割として非常に大きな意味をもつのである。

また、③正しい公私関係の確立は、そうしたことの基本となるものといえる。すなわち、市民と行政が協働していくには、役割分担の範囲が明確になっていることが前提だからである。

これは、一つには行政が果たすべき最低基準(シビルミニマム)を明らかにするということである。また、その基準の設定は市民参加ですすめていくことが必要であり、実践活動を通じてさまざまな問題を感じているボランティアは、行政に対する提言を行ったり、市民の合意形成をすすめる、先導的な活動を制度化していくうえで大きな役割を果たしていくことが求められる。

公私関係の確立におけるいま一つの問題は、国民が広くもっている強い行政依存、行政まかせの体質を改め、市民がなすべき

ことを明らかにするということであろう。これも自発的に課題に取り組んでいるボランティアが推し進めていく課題であるが、この課題の解決には何よりも多くの人がこうした考え方を理解し、賛同していくことが不可欠であり、ボランティア活動の広がりが必要な問題である。

また、単にサービスを提供していくという問題だけでなく、主体的な意識をもったボランティアを増やしていくことが必要である。実践活動を通じて身につけた力で行政と対等な立場で批判的協力関係を樹立していくことをボランティアは意識していく必要がある、そうした意識を身につける方への援助がVCに求められる。



3



はあとが、はろー!

出会いさまでま

富田 慶子

発会式(三月二九日)を終えたハサロン・あべのVは、サロン活動に関心を持って下さった方が委員として参加されたのをはじめ、岡氏の推薦で参加くださった方等、総勢十五名(旭・石田・井上・大島・沖・河合・久保・齊藤・辻田・辻本・富田・中西・中原・福西・山本)が運営委員となりました。

初めての委員会を四月五日(土)に育徳コミュニティーセンターの研修室で開きま

した。この日は、ビューローの岡氏も参加下さり、今後のサロン活動の骨子ともなる話合いが色々とお出ました。

障害者グループとしての集りではなく、ボランティアグループとして理解される活動をしていきたい。サロンの語義とおりに誰もが自由に参加して、自由に話が出来る場所にしていきたい。地域の障害者と健常者が出会う場を設ける事によって、お互いに親しく話合い、その中から障害者に対する理解と認識が生れてくるようにする。委員は、参加者の話を輪を広げていく役割を担う。その為の企画を立て、それを運営していく委員は、障害者・健常者の区別なくボランティアとしての自覚を持って、活動を進めていく等々。ハサロン・あべのVのこれからが具体的に話合われました。

ボランティアグループとしてのサロン活動を進めていく為の話が進む中で、問題として出てきましたのは、運営費の事です。どこにも寄りかゝらないボランティアグループとして、活動していくには、それなりの運営費が必要となってきてきたのです。

それまでの経費は、前年に開催したクリスマス集いの残金や、発会式の会費等を

当てましたが、それだけで賄えるわけはなく、印刷関係や個人立替え分はある時払いの催促なし(これは今も続いている)という感じてしてしまいましたので、定期的な支出(例会の部屋代、講師謝礼等)が必要となりますと、その財源をどこに求めるかが問題となりました。

そこで、ボランティア助成金の申請を考えていく事になりました。発足したばかりのボランティアグループに、助成金が交付されるかどうかは心もとなない期待でしたが、自分達が作っていかうとしていけるハサロン・あべのVの活動が、ボランティア活動として呼ばれるのに値するものであるという自負は少なからず持っていましたので、申請する事に意義があると考えました。

その準備として会則作りを始めたたり、より多くの方に知っていただく為の広報活動をも考えました。まず大島氏よりご自分が主宰されている月刊誌「わがまち」へサロンの案内を掲載して下さるとの申し出がありました。

ビューローからは、ボランティアグループとの交流の話があれこれ出てきました。その一つにビューローの男性ボランティ

アグループとの交流会の話があり、四月十二日に出会いの場を持ちました。

そのグループの男性の方々は、現役時代の専門を生かしたボランティア活動を望まれている様でした。サロンからは、集いに参加していただき、お互いの交流等をお願いしましたが、具体的な話にはなりませんでしたが、このメンバーの中に友愛グループ等幅広いボランティア活動をされていた小倉寛一氏がおられました。

小倉氏には、ビューローでも度々お目にかかる機会がありました。ご自分からはボランティア活動について何も言われませんでした。その姿勢を拝見していますと、ボランティア活動の奥の深さを感じずにはおれませんでした。介助のお手伝いをされている人が入院された時、その留守中の家に残された植木の水やりに通われたと、伺いました。その人が退院された時、生き生きとした植木を見ることが出来るという事は、どれだけ元氣付けられることでしょうか。ハサロン・あべのVも、小倉氏には今日に至るまで、色々とお世話になってきました。

又、阿倍野保健所内にある精神障害者の集りである保健所のサロンとの交流の話も

## 芽吹くふれあい

森下 公子

御元気の事と思います。

毎月お忙しい中を「サロン・あべの」紙

御送りいただき有難うございます。

「はあとが、はろー!」何度もよみ返さ

せていただいています。貴方をはじめ、サロン…の中でいろいろとお書きになっている方、又その中に出でおられる方、どこにも明るさが笑っていて、文句やグチ…の多い今、只々教えられています。

ありました。保健所の方に精神障害についての話を聞く機会をビューローで作っていただいたりしました。

その他に早川福祉会館内で身障者に編物を教えている「ニットイングサロン」へも見学に行きました。

ここには三人の身障者の講師が居られ、その一人がサロンの委員として参加された山本篤江さん(手編み講師)。そして、後

森 芳江

暖かくなったり、寒かったりして、じらしながら春が近くなって来ました。

いつも「サロン・あべの」紙をありがと

うございます。

富田さんの「O」からの呼びかけで今ま

でのなりたちがわかりました。

皆さんが「O」だったのが素晴らしい出

会いになったのですね。

にパネラーとしてサロンへ来て下さった川島雅恵さん(機会編み)が居られました。

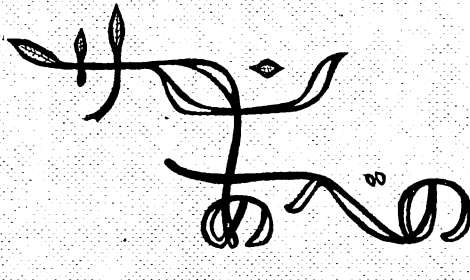
このように色々なグループとの交流を持ちながらハサロン・あべのVの開催準備も進んでいきました。

そして、初めてのサロンの集いが開かれる第三土曜日(四月十九日)がやってきました。

この日のテーマは、「国民年金法改正に



ようこそ



芽吹く春くサロン・あべの>が誕生しました。  
 <サロン・あべの>では、障害者と健常者の人達と共に様々な出会いを大切にしてお互いのコミュニケーションを深め、サロン活動を広げていきたいと考えています。

楽しい出会いは、交流会  
 新鮮な感性との出会いは、講演会  
 意見と情報の出会いは、学習会  
 文化・施設等々の出会いは、見学会

人と人、人と言葉、人と物、人と季節、人と……等々多くの出会いを通して障害者の問題を見つめ、地域生活を豊かにしていきたいと考えます。

そして、共に助けあえる地域福祉の充足のための一粒の麦と成長していくことを希っています。

今後の<サロン・あべの>に関心をお持ち下さり、サロン活動にご参加下さいますようお願い申し上げますとともにお力添えご協力をも合わせてお願い申し上げます。

#### <サロン・あべの>運営

目的 障害者と健常者が共に集い、障害者の地域生活と社会参加をはかることを目的とする。

事業 障害者の社会参加のための

- ・教育活動
- ・情報の提供と交換
- ・活動援助
- ・調査および研究
- ・その他、必要な事業

#### <サロン・あべの>活動予定

- 4月19日(土) 年金について  
 [知っているようで知らない年金について]
- 5月17日(土) 阿倍野今昔 [温故知新]  
 [ふるきを訪ねて新しき現在を考える]
- 6月 見学会  
 [市立リハビリセンター見学会]
- 7月19日(土) コミュニティーケア  
 [地域生活と福祉について]

※<サロン・あべの>のお問い合わせは下記をお願いします。  
 (月・水・土曜日、午後1時~7時) TEL.06-628-3434  
 〒545 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
 育徳コミュニティセンター内  
 あべのボランティア・ビューロー

サロン・あべのへのおさそい(上)と、第1回  
 ~第4回までの出会いの予定を知らせるチラシ

ついては、障害者から奥様の年金まで」。堺のリハビリセンターの先生に講師をお願いしていたのですが、急病で入院。

これは大へんと押取刃で委員の井上憲一氏が入院先にかけて、俄仕込みで教えを受け、急遽代役に立ちました。冷汗もののサロン・あべの第一回目の出会いのアクシデントも付け焼刃のはげることなく「年金の話」は終わりました。

年金の話が終わった後、聴覚障害者の方に手話で自己紹介をする指文字を教えてもらいました。参加者一人ひとりが自分の名前を指で表現しました。この指使いがなんともし楽しく、場を和やかにしてくれました。二回目のサロンの集い(五月十七日)は、地域の土地柄を知ろうと「阿倍野今昔・温故知新」のテーマで、阿倍野肢体部の岡田浅吉氏にパネラーをお願いしました。

阿倍野区の地図を用意して阿倍野区内の神社仏閣の話から、それにまつわる生活の節目についての話へと広がりました。この日の終わりも、各自の名前を手話で表現したり、「こんにちは」「ありがとう」等の簡単な挨拶を覚えていただいたりしました。自分の名前を表現出来ても、相手の手話が読み取れなければお互いに通じあえないわけで、手話の難しさを少し知りました。又、この時初めて聴覚障害者の方が、話に集中すると目が疲れると言われる意味も知りました。



# ふれ愛

上平 幸雄

## 空の旅 ⑨

障害者リクレーションセンターの見学が  
終わり、一度ホテルに戻りました。

今日と明日の宿泊は、なんと、サンフランシスコ・ヒルトンです。ほかのホテルでは、介護者と同室の、普通のツインの部屋だったのですが、ここでは介護者用の控え室のような部屋が別にあって、自由に行き来ができるものの、プライバシーが尊重できるようになっていました。

しばらくホテルで休憩した後、オークランドコロシウムでの、大リーグの野球観戦にでかけました。

この日は、オークランド・アスレチックス対クリーブランド・インディアンスという試合でした。

とても美しい球場で、車椅子での観戦スペースも、また、車椅子トイレも随所に設

けられていました。それに、観客の応援がとてもスマートでした。

試合の方は、最後まで観戦できませんでしたが、二転三転の末、アメリカンリーグ西地区首位の、アスレチックスが勝ちました。

翌八月二十九日は、終日モントレール観光でした。

まず、俳優のクリント・イーストウッドが市長を務めていたという街、カーメルへ。緑の多いとても静かな街で、観光バスが入って行くことすら、何か悪い事のように思われました。

そして、17マイル・ドライブを通過して、モントレールへ。巨大なヨットハーバーを眺めながら食事をし、ゆっくりショッピングを楽しみました。

そして翌日は、空路、ロサンゼルスへ。サンタモニカからフィッシュャーマンズ・ビレッジ、チャイニーズ・シアター、そしてリトル東京といわれる海外最大の日本人街から、免税店までを一気に見て回りました。

ロサンゼルスでのホテルは、ウェステイ

ン・ボナベンチャーです。このあたりはとも治安が悪いので、外には出られません。ホテルの中にショッピング街があり、日本語でも通じる店が多くありました。中には、日本人が働いている店もあり、いかに多くの日本人観光客が訪れていたかが、うかがわれました。ただし、それもロス暴動までのことで、今は閑散としていました。



チャイニーズ・シアター前の歩道で  
一敷石の星型にはスターの名前が…

# ナンペイの

## ひとこと&ふたこと

### \* 姪とのデート\*

春休みを利用して、埼玉から二人の姪が大阪にやって来た。私の姉の娘たちである。もちろん今までも夏休みとか正月休みとかには、家族そろって遠路遙々大阪まで出掛けて来てくれて、そのつど姪たちの成長ぶりに驚かされるのだが、とりわけ父などは孫たちがやって来るのを心待ちにしている、そのたびごとに文字通り冷蔵庫に入りきらないほどの食べ物や飲み物を買って、では、歓迎準備を怠りなくしている。ただこんな父の、姪たちから言えば祖父の、次から次へと食べ物や飲み物を出してきて「ほら、食べなさい、ほら、飲みなさい」といった「熱烈歓迎」には、少なからず孫たちも閉口しているようで、そんな父と姪たちとの風景を第三者的に見ていると父にも姪たちにも気の毒だなあという気持ちと同時に、ユーモラスなものを感じてしまう。(私は、悪いおじさんなのでしょうか?)

さて、今回は春休みで両親たちの仕事の都合もあって姪二人だけがやって来た。

いつもなら親子そろってということ、何ということはないのだが変に大人同士が気を使いすぎてしまって、私たちのほうから声を掛けて気軽に「うちへちょっとよっていったら?」というような感じにはなかないかなかったのだ。

意外に(と言えばきつと怒るだろうが)私よりはるかに家内は親戚関係をはじめとして人間関係に特別気をつかうほうで、

「うちに来てもらっても、お茶ひとつ入れるにしてもお姉さんたちに手伝ってもらわなあかんから……。」  
という具合になってしまふのだ。

ところが今回は若者二人だけで、変な気遣いもなく、ちょうど私の留守中だったが姪のほうから電話も掛けてきてくれてさっさと会う場所や時間も決まっていた。私はと言えば、ほとんど決まっていたス

ケジュールにひよいひよいと乗っかって、若い姪たちと楽しいデートの時間を過ごさせてもらったわけで、家内からはきつと、「いつもあなたは、ずるいんだから!」というお言葉を頂戴するであろう覚悟は出て来ている。

しかし、これからは大人同士でも変な気遣いはやめにして、もっと気軽に付き合えるようになることへのスタートの「記念のテート」だったのかも知れない。

南光龍平

### おしらせ

#### 五月の出会い

日時 五月十五日(土)午後一時~四時  
内容 「サッカー サッカー サッカー」

パネラー… 電動車いすまきクラブ

代表… 土井俊次氏

場所 育徳コミュニティセンター二階

研修室「大阪市阿倍野区阪南町五

一五五-二八 車イストイレ・ス

ロープ有り」

会費 なし

申込みと問合わせ先

TEL・〇六一六九一一〇二八(富田慶子)

# 美智子のこんな話



岸田 美智子

悲しい事故が

いつも色々な施設のひどい状況や施設生活の改善点などを書いてきましたが、今回はこのような事を裏づけるような事故が起こってしまいました。

その事故の内容を、新聞記事から要旨を紹介します。もちろん、このような事故はこれからも色々な施設で起きる可能性があるのです。このような現実を一人でも多くの人に伝えて行きたいと思えます。

これを読んでの感想などを是非お聞かせ下さい。お待ちしております。

○大阪市西成区の「ピアンエトル恭愛」内の知的障害者施設「第一博愛」(定員百

人)で一月十四日夜、重度の知的障害者(二一歳)が入浴中おぼれて死亡する事故があった。この日、三人の職員が同施設内の浴室で、二〇人を順番に入浴させていた。一人が脱衣場で入所者の衣服の着脱作業をし二人が洗い場で体を洗っていて、目を離したわずかのすきに上り湯に入っていた一人が浴槽で浮いているのを見つけ、病院に運びこまれたが間もなく窒息死した。

厚生省の「精神薄弱者援護施設の設備及び運営に関する基準」では、障害者四・三人に一人の割合で看護婦・指導員を置くことが義務付けられており、同施設では基準の二四人を八人上回る三二人が配置されていた。

事故後、同施設では入浴時に一人が必ず浴槽など全体に気を配って安全を確保しているという。

(平成五年二月十日付毎日新聞朝刊より抜粋)



「はあとが、はろー！」を冨田さんをお願いするとき、実はこゝまで反響があるとは思っていませんでした。前回のサロンあべのの産みの苦しみが終わったところで、みなさんから大へんだったんですね、たゞたゞ感激しました、などと最大限の贅辞を送っていただきました。今回からいよいよ毎月々の「出会い」、人との「ふれあい」に入ります。

本紙は<100号>まであと18(石)

## 編集後記

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.82[ '93.4.17発行] 定価¥100.  
代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-20-19-203 電話06-621-4365  
連絡先；冨田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028  
表題；斉藤孝文・筆  
印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.